



# ザンバーン通信

## 女子学生 インタビュー

理工系の室蘭工業大学で、生き生きと学生生活を送る女子学生たちにインタビュー！進学を決めた理由や、現在学んでいることなどについてお話しいただきました。将来の目標に向けて前向きに学ぶ姿を見て、「理工系って面白そう!」、「私もやってみたい!」と感じる中高生の皆さんが一人でも増えることを期待しています。

### 室工大を志望した理由

私は、小さい頃から工作・裁縫などのモノづくりに興味がありました。高校2年生の時に、何をしたいか考えたとき、総合大学よりも工業大学の方が専門的な知識を習得でき、自分に合っているのではないかと考えて、室蘭工業大学を志望しました。室蘭工業大学に入学後は、設計など、ものづくりのイメージが強い機械ロボット工学コースに進み、現在は精密メカトロシステム研究室で研究を進めています。

昔から、おもちゃの製作や人に何かを教えること、特に子供に教えることがとても好きでした。大学1年生からは、それを実践できるロボットアリーナでアルバイトをしています。また、学部時代は教員免許 高校（工業）も取得しています。大学生活、とても充実した日々を送っています。



### インフラストラクチャーに活用できるロボットの開発

現在、私はインフラストラクチャー、例えばトンネルや橋梁などの維持・管理技術の開発として、壁面を移動できる多

脚ロボットの開発・提案を行っています。具体的には、吸盤がついている6本脚を利用して、壁面を移動するロボットとそのシステムの開発です。現在まで、多脚ロボットの平面移動と管内移動までの検討は行われているのですが、壁面への検討はまだ行われていませんので、その開発をしています。特に、吸盤を操作するための工夫が必要であり、またロボットの軽量化も課題です。これがクリアになりますと、実務への適用が期待できます。

### ロボットアリーナ（アルバイト）との出会い

ロボットアリーナでは、工作教室の準備、当日の運営を行っています。その中で、工作教室の時に、私が提案した3Dプリンターで作成した魚がモーター制御によって駆動する自作キットが採択されたことが、今ではとても良い経験・思い出となっています。本学では、ロボットアリーナも含め、Cremoなど早くから工作機械に触れることができる環境・施設が整っており、それが一番の魅力だと感じています。また工作教室の司会進行や説明スライドの作成経験を通じて、プレゼンテーション能力も向上していると実感しています。

### 女子高校生へのメッセージ

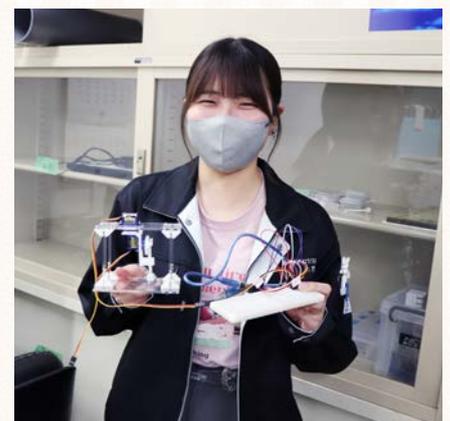
先にも述べましたが、室蘭工業大学では、モノづくりを行いたいと思った時に、ロボットアリーナ、Cremoなどの施設・設備や、気軽に相談にのって頂ける先生が身近に存在し、アットホームな環



大学院工学研究科博士前期課程  
生産システム工学系専攻  
機械ロボット工学コース1年

土門 愛さん

境下で、それを実践できる点が強みだと思います。女子学生の数は少ないですが、皆さんその分野に興味を持って入学しているので気が合いますし、学生生活を楽しみながら過ごしていると思います。今後は、おもちゃなどを制作する企業や教育系のものづくりの企業への就職を視野に、さらに大学院の生活を楽しみたいと思います。



早くから工作機械に触れることができる環境・施設が整っているのが本学の魅力

## ■ キャリア形成のためのランチタイムセミナー 第17回 ■

「“ロールモデル”にとらわれない働き方と研究のすすめ」

講師：橋本 綾佳 氏（岩田地崎建設株式会社 主任） 日 時：令和5年2月21日（火）12:00～12:45  
場 所：室蘭工業大学 教育・研究1号館 A317教室 対 象：本学の学部学生・大学院生 他

令和5年2月21日（火）に「キャリア形成のためのランチタイムセミナー 第17回」を開催しました。講師の橋本 綾佳 氏より大学院在学中の研究活動や就職活動を経て現職に至るまでの経緯、そして現在社会人ドクターとしての立場での学生達との向き合い方や女性が企業で働く上での経験についてお話いただきました。仕事をする上で心掛けていることや自分にしかない唯一無二のスキルを身に付けることの大切さについて語られ、「『ロールモデル』にとらわれず、自分らしさを持っていれば仕事はいくらでもある。」との励ましのメッセージをいただきました。

当日は20名の参加があり、参加者からは「結婚・出産と仕事の両立のリアルな問題やハードルの高さを改めて知りました。」「女性であるための仕事や研究で苦労したことをもっと詳しく聞きたいと思いました。」などの感想が寄せられ、今後のキャリアプランを考える上で有意義なひとときとなりました。



## ■ 附属図書館共催 英語論文セミナー ■

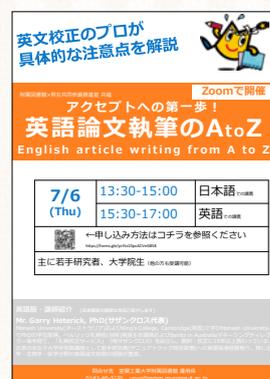
「アクセプトへの第一歩！英語論文執筆のA to Z：英文校正のプロが具体的な注意点を解説」

講師：サザンクロス株式会社 代表 Garry Heterick 氏  
日 時：令和5年7月6日（木）【日本語編】13:30～15:00 【英語編】15:30～17:00  
開催方法：オンライン（Zoom） 対 象：若手研究者、大学院生 共 催：附属図書館

附属図書館と共同で開催する、英語論文セミナー「アクセプトへの第一歩！英語論文執筆のA to Z：英文校正のプロが具体的な注意点を解説」を令和5年7月6日（木）オンラインにて開催し、日本語編は11名、英語編は4名が参加しました。

講師はサザンクロス株式会社よりGarry Heterick 氏（代表）をお迎えし、英語論文を執筆する上での重要なポイントや注意点等について、昨年度同様英語編と日本語編に分けて講義いただきました。

アンケートでは、「満足」もしくは「ほぼ満足」と答えた回答者が100%であり、「理解しやすい内容だった」「一般的な論文執筆のアイデアに加えて、最近の動向が盛り込まれていた」などの感想が寄せられました。



## ■ 令和4年度女性活躍推進セミナー ■

講師：村木 厚子 氏（津田塾大学客員教授、伊藤忠商事(株)社外取締役、住友化学(株)社外取締役、元厚生労働省事務次官）  
日 時：令和5年1月10日（火）13:30～15:00  
開 催：室工大サテライト会場 主 催：北海道庁

基調講演：「あらためて女性活躍の意味を考える」

講師との意見交換：「女性の活躍が組織にもたらす価値」

令和5年1月10日、北海道庁主催の令和4年度女性活躍推進セミナーが開催され、本学からは本学サテライト会場（本部棟3階大会議室）並びにオンライン聴講の学生・教職員計49名が参加しました。

基調講演では元厚生労働省事務次官の村木氏より「令和の時代は前向きな改革」とし、働き手を増やすためには、女性だけではなく、男性の労働環境の整備等の働き方改革の必要性について述べられました。また、講演後の意見交換会では、本学の木幡 行宏男女共同参画推進室長・副学長がパネリストとして出席し、「女性の活躍が組織にもたらす価値」をテーマに女性活躍に関する課題や取組について意見交換を行いました。女性が企業で活躍するためには、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を取り除くことや、当事者の声に耳を傾け、性別を問わず利用可能な仕組みや制度作りの重要性について示唆されました。



### ダイバーシティ通信 第18号（2023年9月）

国立大学法人 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット（UFR）  
〒050-8585 北海道室蘭市水元町27番1号 TEL：0143-46-5018 / FAX：0143-46-5032  
E-mail：ufr@muroran-it.ac.jp URL：https://u.muroran-it.ac.jp/ge\_ufr/

本誌および本学の男女共同参画等についての  
ご意見・ご要望をUFRまでぜひお寄せください。

本学の男女共同参画推進を応援して下さる個人・企業からのご寄付を受け付けております。  
詳しい手続きは下記URLをご覧ください。  
https://u.muroran-it.ac.jp/ge\_ufr/kifu.html  
ぜひご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

男女共同参画推進室  
Office for Promotion of Gender Equality

女性研究者  
支援ユニット  
Unit for Female Researchers